



山形県村山市出身
芦野 百花さん

地域、社会貢献も大切にしたい

4月から始まった業務知識、社会人としての意識やマナーといった社内研修に加えて、協賛するベガルタ仙台のボランティアに参加する機会がありました。

試合会場のスタジアムで、ごみを分別するエコステーションの設営や来場者にパンフレットを配る作業を手伝いました。活動のかたわらボランティアグループのメンバーと会話すると、「チームが好き」「サッカーが好き」というだけにとどまらない社会貢献意識の高さに驚かされました。一人の社会人として見習うべきことが多いと感じました。

研修期間は限られますが、ボランティアのような社会貢献の機会は常に身近にあります。社会人として企業に対してはもちろん、地域社会にも貢献できるよう学び、行動することを大切にしていきたいと思います。



秋田県秋田市出身
稲垣 花恵さん

心の成長、日々実感

今、電車で揺られています。優先席には座らず、イヤホンから流れる音楽は、周囲に迷惑をかけないよう小さな音に設定しています。

入社から早4カ月以上が経過し、意識が着実に学生から社会人へと変わるのを実感しています。それは、キューアンドエーの一員ということを実感したからです。

社会人に必要なビジネススキルから業務の専門知識まで幅広いスキルを磨く日々。研修を通じて、一歩外に出れば個人の自由ではなく、社会人としての責任のある行動をとろうと努めるようになりました。学生時代は自分優先、今では企業のため、社会のために行動する人間であらうと心掛けています。

自分の変化を意識するとともに、改めて成長する機会を設けてくれたキューアンドエーと、入社を後押ししてくれた家族に感謝したいと思います。

キューアンドエーの新入社員研修を河北新報社が応援！

取材・文章の書き方講座

開講



社会人1年目の今の想いを紙面で発表!!

コールセンターを運営するキューアンドエー(本社・東京、川田哲男社長)が仙台で新入社員8人を採用しました。社会人に求められるコミュニケーション力や文章による伝達力アップを目指す研修に地元色を取り入れようと、河北新報社に講座提供を依頼。8人は7月2日、研修に臨みました。

これから本格的な業務にあたるのを前に、研修の成果を企業広告に載せて発信します。

「誰かを笑顔にする」を仕事に

誰かの悩みを親身に聞いて、解決策の糸口と一緒に手繰り寄せる作業が大好きです。解決後に相手が見せる笑顔は何よりの報酬です。

学生時代、「留学に行きたいけれどお金が足りない」という友人の相談に乗った時のこと。「自力で何とかしたい」と話す友人の状況を聞き、「一時的にお金を借り、帰国後にバイトで工面する」という提案をしました。

どんよりしていた友人の表情は、提案に納得して晴れやかになり、「ありがとう」と感謝の言葉をかけてくれました。人の悩みを解決することが自分ごとのようにうれしいと感じた瞬間でした。

「誰かの手助けをして喜んでもらいたい」。日々の研修で活躍する先輩方の仕事ぶりを見るたびに、その気持ちは強まる一方です。お客さまのたくさんの笑顔のために、日々精進していく覚悟です。



宮城県仙台市出身
松田 亜利紗さん



山形県米沢市出身
藤田 早紀さん

新天地で東北を元気に

社会人生活の第一歩は「どの企業か」はもちろん、「どの地域か」も考えるべきテーマの一つです。新型コロナウイルス感染症が都市部を中心に拡大し、生活拠点の置き場を見直した人も多いのではないのでしょうか。

大学進学と同時に首都圏へ転居し、コロナ禍で学生生活に制限と変化を強いられました。テレワークの普及で、どこで生活していても都市部の企業で働くことができる働き方の急激な変化を目の当たりにしました。悩み、試行錯誤した就活で行きついたのはふるさと東北で働く「Jターン就職」でした。

初めて住む仙台は、自然豊かでにぎわいのある居心地のいい場所。この街で、コールセンター業務を通じてはもちろん、CSR活動にも積極的に参加して地域と関わり、ふるさとに元気を与える人間になりたいと思います。

講座REPORT

— レポート —



新入社員8人は7月2日、仙台市宮城野区で受講。河北新報社ビジネス戦略室の大泉大介部長が「『伝わる文章』入門 新聞記者のコミュニケーション」と題して講話したほか、2人一組で相手を取材、紹介する「他己紹介ワークショップ」を行って質問やメモを取る力、そして発表内容をまとめる力を高めました。事前に執筆した文章を仲間と一緒に分析し、より伝わる書き方について意見を交わす合評会も行い、文章を見る目を養うとともに、表現力も学びました。

新人研修を担当するキューアンドエー人財開発部長・勝又孝夫さんは「電話の対応履歴を文章にまとめる業務は必須で、記者の取材、執筆力を伝授してもらおうと新聞社の講座を取り入れました。普段見聞きすることができない記者の仕事には新しい発見が詰まっていて、8人にとっていい刺激になったと思います」と研修に手応えを得た様子でした。

Q&A

あなたをささえる わたしのこえて

地域とともに…「宮城スタジアム」の
命名権を2020年に取得しています

キューアンドエー株式会社はお客さまの「困った」に寄り添うコールセンター運営を中心に来年で創業25周年を迎えます。お客さまのQuestionに対し、期待を超えたAnswerを提供することで、感動を生み出したい。私たちは「感動共有企業」を掲げています。お客さまへ最高のサポートサービスを届けるために、私たちは共に「感動共有」サービスを創造し、「働く幸せ」を一緒に感じ続けることのできる人財を求め、仙台での新卒採用を続けています。

仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー9階
キューアンドエー株式会社 仙台トラストオペレーションセンター
022-212-6221





秋田県秋田市出身
斎藤 志穂さん

目標は八百屋のおばさん

「これお祝い」。4月1日、学生時代からなじみの八百屋に立ち寄り最初の出勤日であることを告げると、おばさんが笑顔でデコポンを1個差し出しました。

訪れるたび、おばさんはいつも気さくに完熟バナナのおいしさや手作りイチゴジャムの自然な甘さなど、新鮮な野菜の見分け方や料理のコツを伝授してくれます。入社を決めたキューアンドエーの理念は「感動共有企業」。おばさんは、まさに感動共有の体現者です。

帰宅後、デコポンの皮をむくと、柑橘の香りが緊張で強ばった気持ちをリフレッシュさせてくれました。一口ほおばると、酸味と甘みが疲れた体にしみわたります。

「いつか、相手が置かれた状況を想像して寄り添えるおばさんのような人になりたい」。初日の決意とデコポンの味を忘れないよう、職務に励みます。



宮城県仙台市出身
高杉 舞さん

社会人生活、新たなステージで

音大に通い4年間、音楽漬けの日々を過ごしました。昨春からのコロナ禍でそれまでの「日常」は一変。「3密の回避」「不要不急」が叫ばれて、コンサートは中止に。社会の変化とともに、仕事に対する私の考え方も大きく変わりました。

「生活を直接的に支える仕事をしたい」。今まで学んだことから一度離れる決断を下しました。

社会に必要とされ、人を直接喜ばせる仕事を探していた時、コールセンターを運営するキューアンドエーに出会いました。

現場で働いているオペレーターは、顔の見えない電話の向こう側のお客さまに対し、声一つで問題解決に向き合っています。その姿に、「早く誰かのために働きたい」との思いは日増しに強くなっています。お客さまに寄り添い、社会に貢献できるよう成長したいです。

キューアンドエーの新入社員研修を河北新報社が応援！

取材・文章の書き方講座

開講



社会人1年目の今の想いを紙面で発表!!

コールセンターを運営するキューアンドエー(本社・東京、川田哲男社長)が仙台で新入社員8人を採用しました。社会人に求められるコミュニケーション力や文章による伝達力アップを目指す研修に地元色を取り入れようと、河北新報社に講座提供を依頼。8人は7月2日、研修に臨みました。これから本格的な業務にあたるのを前に、研修の成果を企業広告に載せて発信します。

関わるみんなと感動共有を

キューアンドエーでは正社員はもちろん、派遣社員やアルバイトなど様々な雇用形態の社員・スタッフが、「感動共有企業」という理念の下、チームとして働いています。

4月からの数カ月間、研修を通じてコールセンター業務や社会人としてのマナー、礼儀といった基本を学んでいます。新人を成長させようと多くの先輩方が仕事の内容や業務の手順を指導。丁寧な説明や親身に相談に乗ってくれる姿勢に、人を大切にする雰囲気を日々、感じとしています。

仕事は一人では遂行できない。短期間に学んだことの一つであり、改めて自分に関わる人たちの存在を強く意識するようになりました。

研修だけでもこれだけ「感動」が詰まった会社です。現場に配属された時、今度は対応するお客さまに「共有」できるよう働く覚悟を固めています。



新潟県胎内市出身
皆川 晃希さん



岩手県滝沢市出身
高橋 遥平さん

「オン」と「オフ」の切り替え名人に

キューアンドエーの中には仕事モードから完全に切り替えることができる休憩室があります。4人席や1人席が並び、雑談で盛り上がりったり、本を読んだり、スマホで動画鑑賞やゲームをしたりと、それぞれの過ごし方でくつろぐことができます。仮眠室もあり、体も心も完全に「オフ」の状態で過ごすことができます。

部屋を出てコールセンターの現場に戻ればスイッチは「オン」に切り替わります。オペレーターは真剣な表情でパソコンと向き合いながらお客さまの対応に神経を研ぎ澄ませます。現場の管理者はオペレーターの支援対応に汗を流します。

空間で「オン」と「オフ」が明確に分けられている社内。メリハリを大切に、スイッチが入ったら最高のパフォーマンスを出せるような社員になりたいと考えています。

講座REPORT

— レポート —



新入社員8人は7月2日、仙台市宮城野区で受講。河北新報社ビジネス戦略室の大泉大介部長が「『伝わる文章』入門 新聞記者のコミュニケーション」と題して講話したほか、2人一組で相手を取材、紹介する「他己紹介ワークショップ」を行って質問やメモを取る力、そして発表内容をまとめる力を高めました。事前に執筆した文章を仲間と一緒に分析し、より伝わる書き方について意見を交わす合評会も行い、文章を見る目を養うとともに、表現力も学びました。

新人研修を担当するキューアンドエー人財開発部長・勝又孝夫さんは「電話の対応履歴を文章にまとめる業務は必須で、記者の取材、執筆力を伝授してもらおうと新聞社の講座を取り入れました。普段見聞きすることができない記者の仕事には新しい発見が詰まっていて、8人にとっていい刺激になったと思います」と研修に手応えを得た様子でした。

Q&A

あなたをささえる わたしのこえて

地域とともに…「宮城スタジアム」の
命名権を2020年に取得しています

キューアンドエー株式会社はお客さまの「困った」に寄り添うコールセンター運営を中心に来年で創業25周年を迎えます。お客さまのQuestionに対し、期待を超えたAnswerを提供することで、感動を生み出したい。私たちは「感動共有企業」を掲げています。お客さまへ最高のサポートサービスを届けるために、私たちは共に「感動共有」サービスを創造し、「働く幸せ」を一緒に感じ続けることのできる人財を求め、仙台での新卒採用を続けています。

仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー9階
キューアンドエー株式会社 仙台トラストオペレーションセンター
022-212-6221

